

バウハウス ミヒャエル・トーネット マルセル・ブロイヤー  
マルト・スタム ミース・ファン・デル・ローエ アントン・ローレンツ

## 1. はじめに

バウハウス（1919-1933）のデザインのアイコンとなったカンチレバー椅子の誕生にトーネットが大きな役割を果たしたことは周知の事実である。しかし、誰がカンチレバー椅子の本当の発明者なのかを確定するまでには紆余曲折があった。本稿では、1925年のスチールパイプ椅子の誕生から、1932年に裁判によってマルト・スタムが発明者であると裁定され、戦後にトーネットが家具の製作を存続するまでを時系列に整理することによって、バウハウスとの関係性と著作権の在り方を明らかにする。

## 2. トーネットの歴史

トーネットは1830年代にドイツのポツパルトにてミヒャエル・トーネットが創業した家具メーカーである。1842年に木材を湾曲させて家具に用いる技術に関する特許を取得し、曲木の家具の量産を始めた。ウィーンに拠点を移し、1856年に水蒸気を用いた曲木の加工法に関する特許を取得した。トーネットの椅子No. 14はウィーンのコーヒーハウスで用いられ、1899年までに5000万脚が製造された。しかし1869年に特許の独占権の期間が終わると、ヨーロッパ各国の52社が同じ製品番号で類似製品の販売を始め、1891年には730万脚を数えた。特許は製法のみを対象とし、意匠や構造には適用されなかったためである。しかしトーネットは曲木の椅子を改良して輸出先でも販路を拡大し、1893年には累計1500万脚を生産した。こうして創業時のピーダーマイヤー様式を原点とする曲線を背もたれや客部に用いた椅子は、アドルフ・ロース、オットー・ヴァーグナー、ヨーゼフ・ホフマンなど建築家との協働によって直線や三角形や金属を組み合わせたデザインへと変化していった。デザインの著作権に関する概念は確立されておらず、ヴァーグナーの1904年のウィーン郵便貯金局の椅子や、ホフマンのフレージャーマウスチェアは、トーネットとヤコブ&ヨゼフ・コーンのカタログに同じ型番で掲載され両社で販売された。

1914年に第一次大戦が勃発するとトーネットの従業員の4分の3が徴兵された。大戦が終結してオーストリア・ハンガリー帝国が消滅し、トーネットの会社と工場はハンガリー、ポーランド、チェコスロバキアに割譲さ

れ、ベルリン、パリ、ニューヨーク、チェコで分社化した。ライバルのヤコブ&ヨゼフ・コーンはムンドスと1917年に合併した。さらにトーネットのウィーン本社と1923年に合併し、史上最大の家具メーカーとなったトーネット・ムンドスは、戦前の75%まで業績を回復した。トーネット・ムンドスは近代企業の実験場であった。独自の木材曲げ技術を元に、背当てや肘掛けの形を変えた数百種類のバリエーションと共に、基本形状となる椅子No. 14を大量量産し、ヨーロッパ8か国にて木製家具の販売を展開した。第一次世界大戦を経てブルジョア的な装飾ではなく機能的な意匠が求められるようになった。バウハウスの初代学長のヴァルター・グロピウスは、ミヒャエル・トーネットの「本質まで形と素材を減らす」という原則を参照した。

## 3. マルセル・ブロイヤー

ハンガリー生まれのマルセル・ブロイヤー（1902-1981）は1920-1924年にバウハウスのヴァイマルの工房で学んだ。1925年に校舎がデッサウに移転すると、家具工房のマイスターとなった。ブロイヤーは当時流行したアドラーの自転車を購入してスチールパイプを曲げたハンドルに感銘を受けた。アドラーの自転車工場に製作を断られ、デッサウにあった航空機メーカーのユンカーズの工場と協働して、1925-1926年にスチールパイプ製の椅子B5や、入れ子式のサイドテーブルB9、後にワシリーチェアと呼ばれた椅子B3を製作した。グロピウスは1926年にバウハウス有限会社を設立し、バウハウス製品の権利を外部に販売して収入を学校に還元する仕組みを準備していた。しかしブロイヤーは作品の著作権は工房ではなく個人に属すると考え、同年に同郷のカルマン・レンギエルとスタンダード・モーベルをベルリンに設立し、スチールパイプ製の7種類の家具の販売を開始するかわら、バウハウスの印刷工場で自社のカタログを製作した。

## 4. ヴァイセンホーフ・ジードルンクでの展示

1926年からミース・ファン・デル・ローエ（1886-1969）はドイツ・ヴェルクブント（ドイツ工作連盟）で副代表を務め、第一次世界大戦後の新しい住宅のあるべき姿を示すため、1927年にシュトゥットガルトの郊外にヴァイセ

ンホーフ住宅展を開催した。陸屋根の実験住宅を設計する建築家のひとりとして招聘されたのがオランダのマルト・スタム（1899-1986）である。スタムは直線状のガスパイプを90度の配管継手で一筆書きのようにつなげたカンチレバー椅子を妊娠中の妻のために考案し、住宅展の前年の夕食会でアイデアスケッチを開示した。スタムは単純で装飾のないデザインが新しい住宅に合うと考え、6月にヴァイセンホーフの住宅展示でスチールパイプの椅子 B33 を発表した。脚部に棒を差し込み補強したが、若干のたわみは防げなかった。近年、トーネットは自社の調査で、夕食会でミースがスタムのスケッチを見て、スタムと話をした可能性を指摘している。ミースは1927年初夏にカンチレバー椅子の脚部の直線をアーチに置き換える実験を行い、7月に自分の住宅の展示に間に合うように椅子 S533 を製作し、8月に特許を申請した。ミースはマンネスマン製のシームレスな鋼管圧延技術を活かし、スチールパイプの弾性を椅子のクッション性に応用した。スタムは1928年から29年までバウハウスの客員講師を務め、ミースは1930年から1933年の閉校まで学長を務めた。

## 5. アントン・ローレンツ

ブロイヤーは家具工場のマイスターを1928年に辞すと、ベルリンで建築事務所を開いた。経営難だったスタンダード・モーベルは同郷のアントン・ローレンツ（1861-1964）が買収し、1929年にトーネット・ムンドスに売却した。ブロイヤーはトーネット・ムンドスと協働し、1930年にトーネットからスチールパイプ製のカンチレバー椅子の B32 と B64（現 S32 と S64）を製作してパリ装飾美術家展（Salon des Artistes Décorateurs）で発表した。ブロイヤーは自分こそスチールパイプの椅子とテーブルの発明者だと述べ、スタムが自分と話している時にカンチレバー椅子のアイデアを盗んだと主張した。

やり手のローレンツは1929年にスタムからカンチレバー椅子の製造権を得て自分の家具メーカー「デスタ」から ST12 として売り出した。さらに、ブロイヤーが特許を申請していなかった B32 を自分の仕様で登録し、トーネットがブロイヤーのデザインとして販売していたカンチレバー椅子 B33 は、自分の権利を侵害していると訴えた。この間、フランケンベルクのトーネット本社工場は1930年にスチールパイプ椅子の生産部門を設置した。1932年に裁判所はカンチレバーの椅子の発明者をスタムだと裁定した。トーネットは、カタログのブロイヤーの名前をスタムに書き替えた。勝訴したローレンツは自分の会社とスタムのデザインをトーネットに売却し、トーネットで家具のデザインを手掛けた。

こうして、カンチレバーパイプ椅子の誕生に関わったマルト・スタム、マルセル・ブロイヤー、ミース・ファン・デル・ローエ、そしてアントン・ローレンツの4人

のうち、誰が本当の発明者なのかという議論に終止符が打たれた。スチールパイプ製の家具や椅子と、カンチレバー椅子はバウハウスのモダンで機能的な家具の代名詞となった。1929年にトーネット・ムンドスのフランス工場でもスチールパイプ家具部門が設けられ、ル・コルビジエのシェーズロングとバスキュラントを試作し、同年のサロンドートンヌで発表した。モダンすぎて市場には受け入れられず、製造には至らなかった。1932年にフランス工場は閉鎖され、フランケンベルクのトーネット本社工場のスチールパイプの生産部門と一本化され、急増する需要に応えた。

## 6. 考察

1933年にナチスが政権をとり、バウハウスは閉校した。1938年にナチスがオーストリアを併合した際、トーネット・ムンドスも解散した。バウハウスもトーネットもナチスの影響を免れなかった。1946年にドイツのトーネットはフランケンベルクを本社として製造販売会社トーネット兄弟会社として再開し、オーストリアでは販売会社ウィーン・トーネット兄弟社として再開した。ブロイヤーら建築家が製作したカンチレバー椅子をはじめとするスチールパイプ製の家具は、ガラスのカーテンウォールで構成されたデッサウ校舎で多用され、機能主義と工業デザインのアイコンとなった。バウハウス初期のヴァイマル校舎では手工芸や木材を重視していたのとは対照的である。当時、特許は製法のみを対象とし、意匠や構造には適用されなかったためデザインの流行はごく普通に行われていた。しかし大量生産の時代を踏まえ、グロピウスはバウハウス製品を外部に販売して収入を学校に還元するために会社を設立した。ブロイヤーやローレンツも、権利と利益を確保するために会社を設立した。1962年にトーネットはカンチレバー椅子 B32 の名義を再びブロイヤーに戻した。バウハウスの開校から100年、トーネット創立200年の2019年にヴィトラデザインミュージアムではローレンツのスチールパイプ椅子に関する功績を再評価し展覧会を開催した。そしてトーネット本社ショールームでは歴代の曲木の椅子とバウハウス時代の家具として4人のカンチレバーの椅子を並べ、曲木のほかミースとブロイヤーの椅子を製作、販売している。

本稿は、2018年5月22日から30日の期間に、フランケンベルクのトーネット本社と、創業のポツパルト、ウィーンの墓地、チェコのビストリチェの工場（現 TON）を巡った「トーネット調査」に基づく。5代目のフィリップ・トーネット氏と、同行してご指導をいただいた武蔵野美術大学名誉教授の島崎信氏に感謝の意を表す。

## 参考文献

NICHE 06, OPA Press, pp.190-205

\*工学院大学建築学部 教授

\*\*ATELIER OPA 博士（学術）

\*Professor, Kogakuin University

\*\*Ph. D., Atelier OPA